

検討のたたき台(案)

平成26年11月28日

総務省行政管理局

検討のたたき台（案）

前提：「行政イノベーション」について

本研究会では、従来の行政運営にとらわれず、各府省における日常的な業務のやり方や行政と国民との関わり方について、改善・充実のための方策や推進体制の検討を行うことを通じて、行政運営ないし行政マネジメントの新機軸を打ち出していくことを目指す。

これを踏まえ、今回の研究テーマを表す語として「行政イノベーション」を用い、研究会の名称にもこの語を付することとする。

（参考）

【イノベーション】（広辞苑（第6版））

①刷新。革新。新機軸。②生産技術の革新・新機軸に限らず、新商品の導入、新市場・新資源の開拓、新しい経営組織の形成などを含む概念。シュンペーターが用いた。日本では技術革新という狭い意味に用いられることもある。

検討のたたき台（案）

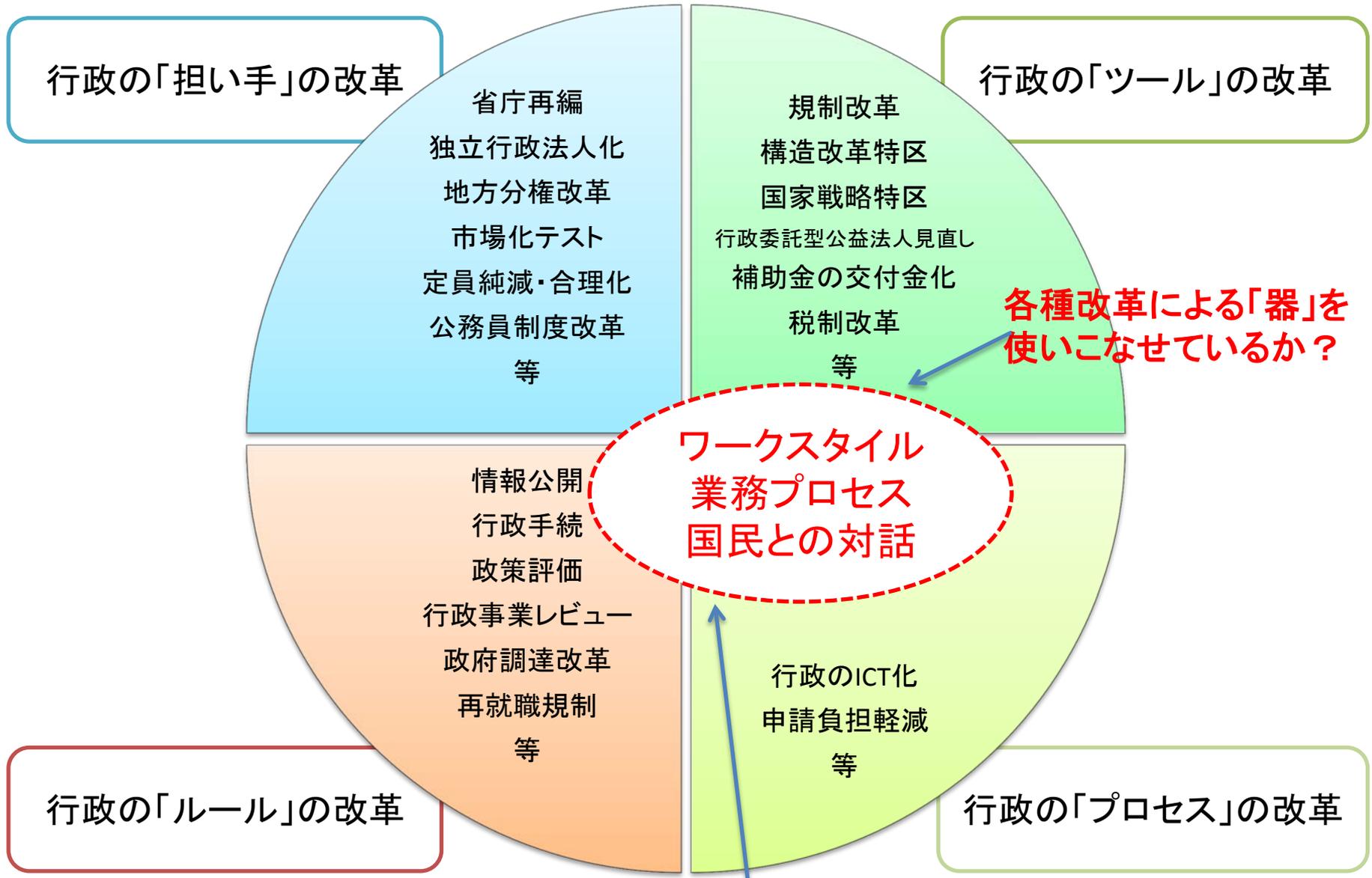
1 基本理念 ～行政イノベーションはなぜ必要なのか～

<問題意識>

我が国の行政改革を振り返ると、中央省庁再編、独立行政法人改革など「担い手」の改革、情報公開や行政手続など「ルール」の改革、規制改革や行政委託型公益法人見直しなど「ツール」の改革に重点が置かれてきた一方、ワークスタイルや業務プロセス、国民との対話といった日常的な行政のプロセスについては、十分な考慮が払われてこなかったのではないかと。また、日々進展するICTの業務における利活用について、向上を図る余地が大きいのではないかと。

また、行政に対しては、常に国民の厳しい目が向けられていることも忘れてはならない。世論調査や国際機関の調査では、日本の政府ないし行政に対する国民の信頼は、決して高いとはいえない。これまでの行政運営の在り方を謙虚に見直し、国民の信頼を確保していくための方策を検討し、講じていく必要があるのではないかと。

これまでの行政改革でカバーできていないものは何か？



これまでの改革は、十分か？

検討のたたき台（案）

<行政イノベーションの目的>

上記のような認識に立って、今後取り組んでいく行政イノベーションの目的については、例えば、次のように整理することが適当か。

- 行政イノベーションによって、幹部クラスから現場レベルまでの業務の効率化を図り、職員・組織のパフォーマンスを高め、行政機能を強化する。これによって、行政サービスの受け手である国民の利益の最大化につなげる。
- 行政の透明性、行政手続に係る国民の利便性を高める。これによって、行政に対する国民の信頼を確保し、国民の満足度の向上を図るとともに、民主主義の強化につなげる。

これらの目的を達成するために、行政の現場に根差した我が国独自の行政マネジメントツールの開発を目指す。

検討のたたき台（案）

2 行政イノベーションの推進方策・体制

行政イノベーションの取組を一過性のものとせず、継続的かつ着実に推進していくための方策や体制はどうあるべきか。例えば、以下の諸点について、どのように考えるべきか

- ・ 各府省におけるトップ、幹部職員、現場レベルのそれぞれの役割
- ・ 府省横断的な推進体制、各府省・制度官庁等の役割
- ・ 課題設定、フォローアップの方法、推進サイクル
- ・ 職員の意識改革、インセンティブ付与の方策

検討のたたき台（案）

3 行政イノベーションの取組課題（基本的整理）

行政イノベーションの今後の取組課題については、例えば、以下のような視点からアプローチすることが適当か。また、平成 26 年度末までを目途に、どのような課題に重点を置いて検討を進めるべきか。

- (1) 行政内部の効率化等の視点
 - ワークスタイルの見直し
 - 業務プロセスの見直し
 - 政策立案機能の向上
 - 政策執行機能の向上
- (2) 行政と国民との関係の視点
 - 行政のオープン化・双方向化
 - 政策情報の積極的提供
 - 国民の利便性向上、負担軽減

検討のたたき台（案）

4 行政イノベーションの取組課題（具体的な着眼点）

行政イノベーションの取組課題については、どのような着眼点から検討し、前進させていくべきか。例えば、以下に掲げるような個別の要素に着目し、各府省等における先進事例や優良事例を把握しながら、改善方策を探ることとしてはどうか。

(1) 行政内部の効率化等の視点

○ ワークスタイルの見直し

- ・ 業務の現場におけるICT活用等による業務のやり方の見直し

（例）web会議システム、ペーパーレス会議、リモートアクセスシステム、フリーアドレス、コーポレートカード 等

検討のたたき台（案）

○ 業務プロセスの見直し

- ・ 業務処理の標準化・電子化

（例）会議開催プロセス、情報共有プロセス、定例的業務のマニュアル化など

- ・ 業務フロー分析

多種多様な業務について、何の流れ（各主体、情報など）に着目して分析することが有効か。業務フローの見直しの手順を共通化・定式化することができないか。

- ・ 意思決定手続の簡素化・迅速化

（例）ミドル・アップダウン、意思決定に係る階層の簡素化

検討のたたき台（案）

○ 政策立案機能の向上

- ・ 必要な客観的データの収集、これに基づく政策立案・検証

（参考）米国OMBの取組（現政権による‘Evidence and Innovation Agenda’）

- ・ ICTの有効利用

○ 政策執行機能の向上

- ・ 知識の伝承、マニュアル化

- ・ 行政において執行機能を向上させる基盤的な要素とは。

検討のたたき台（案）

(2) 行政と国民との関係の視点

○ 行政のオープン化・双方向化

- ・ 行政保有データの公開の充実

（参考）英国の取組（オープンデータの推進）

- ・ 国民の意見を聴取して、政策の企画立案へ反映するための更なる方策

○ 政策情報の積極的提供

- ・ 政策情報を必要としている国民に対する積極的な情報提供方法

○ 国民（利用者）の利便性向上、負担軽減

- ・ オンライン申請の向上

- ・ 申請負担軽減方策

（過去の取組）押印見直し、添付書類削減、許認可有効期間延長、ワンストップサービスなど